

全国の学校規模(学級数別)の割合

学校規模	小学校数	%	学校規模	中学校数	%
～5学級	2003	10.2	～5学級	1886	20.1
6～11学級	6696	34.1	6～11学級	2927	31.1
12～18学級	5925	30.1	12～18学級	3037	32.3
19～24学級	3163	16.1	19～24学級	1199	12.7
25～30学級	1342	6.8	25～30学級	311	3.3
31学級～	499	2.5	31学級～	41	0.4
計	19628		計	9401	

※文部科学省平成29年度学校基本調査統計より公立(本校)を川前が集計
(2018.1.8確認)

北海道の学校規模(学級数別)の割合

学校規模	小学校数	%	学校規模	中学校数	%
~5学級	223	21.2	~3学級	79	13.3
6~11学級	356	33.9	4~5学級	126	21.3

※文部科学省平成29年度学校基本調査統計より公立(本校)を川前が集計(2018.1.8確認)
※北海道の公立小学校1,048校、公立中学校591校

◎全国的に学校の小規模化が進んでいる
⇒44.3%(小学校[~11学級])

★北海道はさらに小規模校化が進んでいる
⇒55.2%(小学校[~11学級])
へき地指定校数⇒381小学校(36.1%)
226中学校(38.2%)

【全国のへき地指定校数(小学校)】

【平成29年度】				
	都道府県	学校数	へき地学校数	割合
1	鹿児島	521	210	38.6%
2	北海道	1054	381	36.1%
3	沖縄	266	85	32.0%
4	高知	232	67	28.9%
5	島根	203	56	27.6%
6	長崎	333	90	27.0%
7	岩手	324	70	21.6%
8	大分	273	42	15.4%
9	愛媛	287	44	15.3%
10	新潟	471	72	15.2%

※文部科学省平成29年度学校基本調査統計より公立(本校)を川前が集計(2018.1.8確認)

北海道の公立小・中学校データ

【291020_北海道教育大学提出資料】
H28.5.1現在(北海道教育委員会HPより)

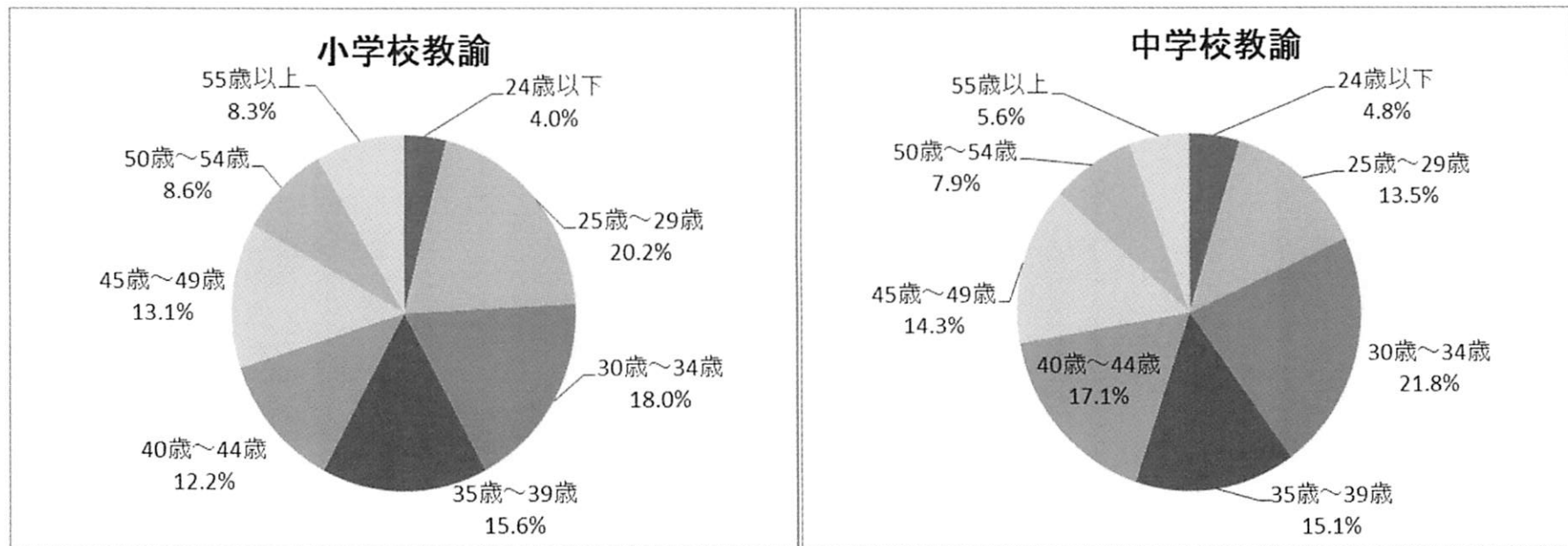
(小学校)

管内	小学校数			学級数
		うちへき地校数	へき地校割合	
空知	67	11	16.4%	679
石狩	271	8	3.0%	4,186
後志	62	31	50.0%	516
胆振	80	12	15.0%	919
日高	28	28	100.0%	223
渡島	97	31	32.0%	849
檜山	22	22	100.0%	133
上川	123	39	31.7%	1,351
留萌	17	17	100.0%	145
宗谷	39	39	100.0%	258
オホーツク	84	53	63.1%	788
十勝	94	47	50.0%	1,036
釧路	58	31	53.4%	584
根室	25	25	100.0%	254
計	261	156	59.8%	2,662
合計	1,067	394	36.9%	11,921

(中学校)

管内	中学校数			学級数
		うちへき地校数	へき地校割合	
空知	44	7	15.9%	341
石狩	139	5	3.6%	1,945
後志	37	16	43.2%	262
胆振	45	6	13.3%	419
日高	15	15	100.0%	98
渡島	48	14	29.2%	387
檜山	13	13	100.0%	70
上川	65	23	35.4%	586
留萌	13	13	100.0%	75
宗谷	23	23	100.0%	113
オホーツク	51	30	58.8%	366
十勝	49	24	49.0%	459
釧路	38	23	60.5%	285
根室	21	21	100.0%	139
計	159	98	61.6%	1,249
合計	601	233	38.8%	5,545

【北海道根室管内における教員の年齢別構成(教諭)】

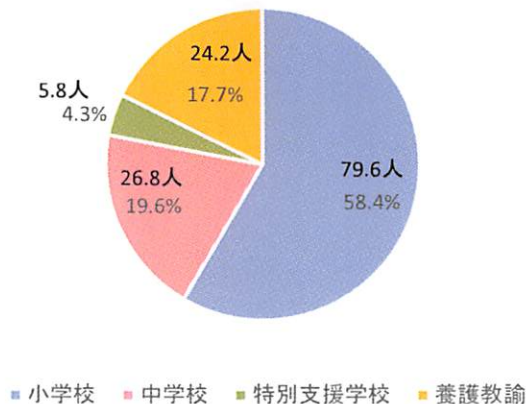


※北海道教育庁根室教育局発行「根室の教育(平成29年度)」より川前が集計(2018.1.29確認)

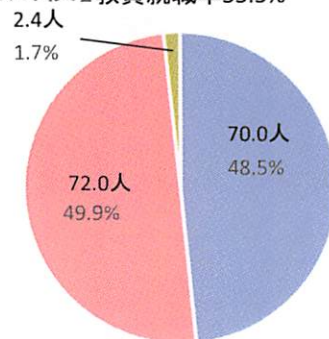
● 学校種等別教員就職状況

※H24-28年度卒業生の卒業年度の翌年度の5月1日現在の5年平均から
 ※高等学校教諭除く
 ※臨時的任用を含む
 ※教員就職率は卒業生数平均から進学者数平均を除いた数を母数とする。

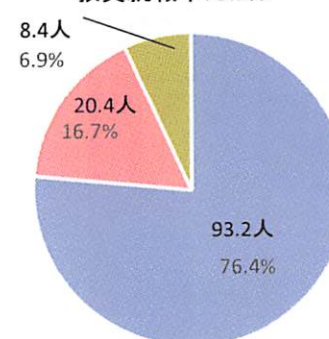
【札幌校】 卒業生数平均259.8人(うち進学者数平均24.4人)
 教員就職者数平均136.4人
 教員就職率57.9%



【旭川校】 卒業生数平均282.8人(うち進学者数平均22.6人)
 教員就職者数平均144.4人
 教員就職率55.5%



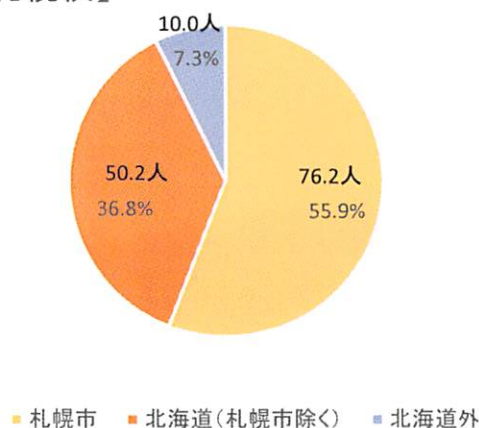
【釧路校】 卒業生数平均190.6人(うち進学者数平均23.8人)
 教員就職者数平均122.0人
 教員就職率73.1%



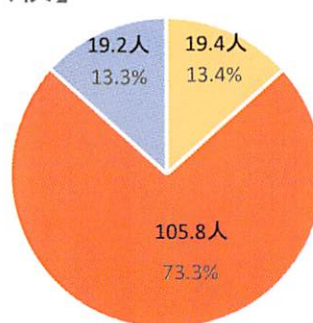
札幌校は約60%が小学校教員
 旭川校は小学校と中学校教員がそれぞれ約50%
 釧路校は約80%が小学校教員

● 地域別教員就職状況

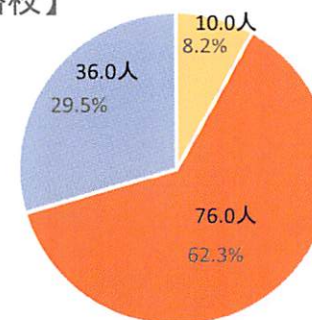
【札幌校】



【旭川校】



【釧路校】

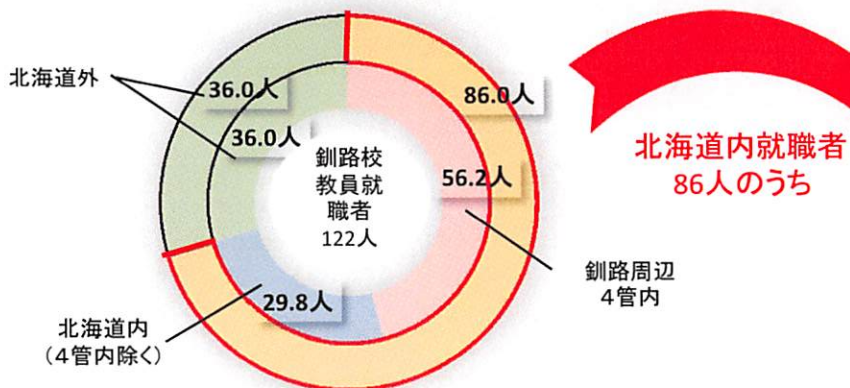


札幌校は約60%が札幌市
 旭川校は約70%が北海道(札幌市除く)
 釧路校は約60%が北海道(札幌市除く), 約30%が北海道外

釧路校の教員就職状況の特色(小学校・中学校・特別支援学校教員)

【291020_北海道教育大学提出資料】

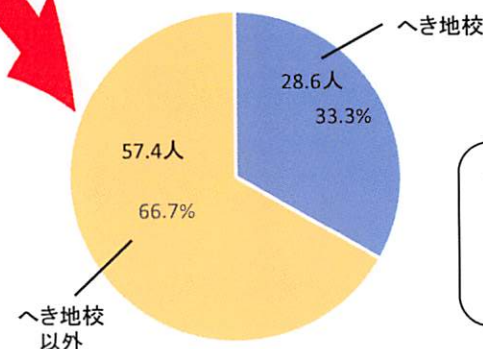
● 釧路周辺4管内への教員就職状況



釧路校卒業生で教員就職者122人のうち56.2人(46.1%)が釧路周辺4管内に就職

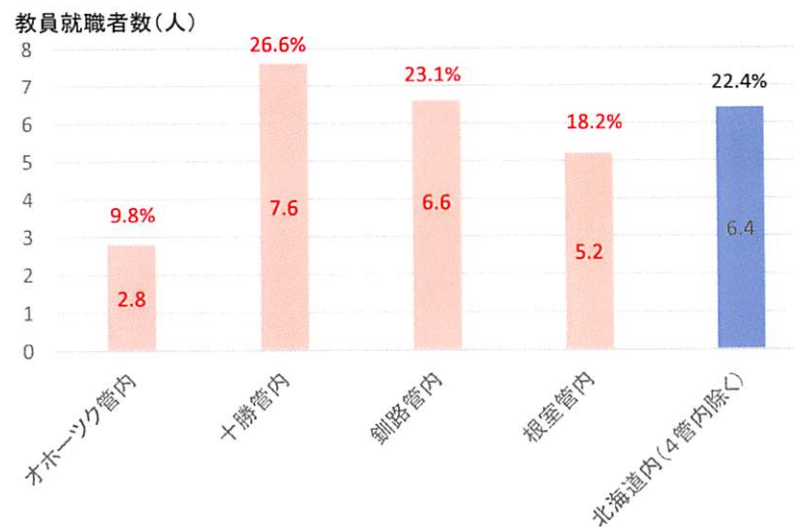
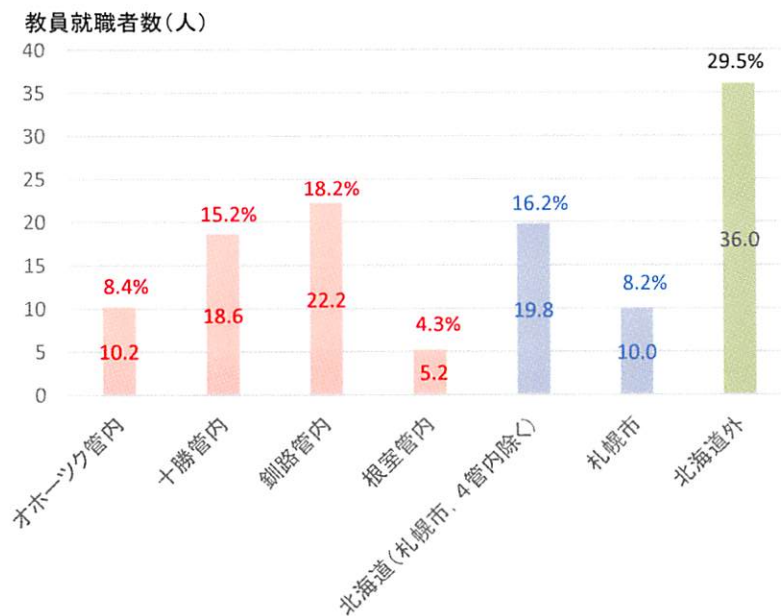
※H24-28年度卒業生の卒業年度の翌年度の5月1日現在の5年平均から
 ※高等学校教諭及び養護教諭除く
 ※臨時的任用を含む

● へき地校(北海道内)への教員就職状況



釧路校卒業生で北海道内の教員就職者86人のうち28.6人(33.3%)がへき地校に就職

【内訳】



へき地校就職者28.6人のうち22.2人(77.6%)が釧路周辺4管内のへき地校に就職

北海道教育大学釧路校 教員免許状取得状況(H23～28)

	小学校	中学校		高等学校	特支	
	1種	1種	2種	1種	1種	2種
平成23年度	179	106	30	63	42	0
平成24年度	181	119	24	71	29	0
平成25年度	187	124	25	97	40	3
平成26年度	197	133	25	109	67	3
平成27年度	186	114	16	92	59	11
平成28年度	182	138	16	107	79	2

中学校	国語		社会		数学		理科		英語	
	1種	2種	1種	2種	1種	2種	1種	2種	1種	2種
平成23年度	23	4	27	6	17	7	16	5	23	8
平成24年度	36	3	34	4	14	7	11	2	24	8
平成25年度	25	4	26	4	13	6	20	0	40	11
平成26年度	26	6	39	9	11	4	21	1	36	5
平成27年度	29	1	20	7	20	4	20	0	25	4
平成28年度	28	2	26	5	22	2	21	1	41	6

高等学校1種	国語	地歴	公民	数学	理科	書道	英語
平成23年度	16	7	7	7	9	2	15
平成24年度	25	6	10	7	7	2	14
平成25年度	18	12	13	7	16	1	30
平成26年度	25	11	17	9	18	2	27
平成27年度	24	9	6	16	15	3	19
平成28年度	24	9	8	15	16	4	31

注1:北海道教育大学釧路校免許発行調査資料

注2:平成23年度の学生数は1学年180名強であり、複数免許を取得するため、合計数は180+241となる。

専攻統合に伴うカリキュラム再編と多種免許取得について (現行の課程認定基準による比較)

現 行

釧路校は小学校、中学校及び特別支援学校の免許取得を支援するためのカリキュラム編成を行っている。しかし、専攻毎に専攻科目が分かれているため、各専攻において開講しているそれぞれの免許科目を他専攻の学生が取得することに限界がある。

■ 3専攻の免許取得に必要な単位数

○主免に必要な取得単位数は卒業要件の単位数と同じ ●専攻科目と免許科目が一部重複

専攻名(主免許)		小学校(1種)	中学校(2種)	特別支援(1種)	3校種免許取得に必要な単位
地域学校教育専攻 (小1種)		○134	24	●27 (-4)	185 (-4) ※2
地域・環境教育専攻 (小1種)		○134	24	27	185
学校カリキュラム開発専攻	初等履修基準 (小1種)	○134	●24 (-6)	27	185 (-6) ※2
	中等履修基準 (中1種) ※1	12 (2種)	○134 (1種)	27	173

※1 中等履修基準の学生は小学校が2種、中学校が1種となる。
 ※2 専攻科目の履修の仕方により、3校種免許取得に必要な単位は最大()内分減となる。

専攻統合後

3専攻をひとつに統合することによって、3つの専攻科目群がひとつに集約され、従来の専攻間を越えた専攻科目取得と比較し、3校種免許取得の必要単位が、最大22単位軽減される等、多種免許取得者の増加につなげる。また、3校種免許取得に必要な単位数を少なくすることで、さらに単位の実質化を図ることが可能となる。

【免許取得に必要な単位数】※ 専攻科目を最大限主免許以外の免許取得に利用した例

専攻名(主免許)	小学校	中学校	特別支援(1種)	3校種免許取得に必要な単位
地域学校教育実践専攻 (小1種)	○134 (1種)	●24 (-22) (2種)	27	163
地域学校教育実践専攻 (中1種)	●12 (-12) (2種)	○134 (1種)	27 (-10)	151

北海道教育大学教育学部教員養成課程の機能分担

札幌校(270)

学校教育専攻(30)
 特別支援教育専攻(25)
 言語・社会教育専攻(80)
 理数教育専攻(55)
 生活創造教育専攻(24)
 芸術体育教育専攻(30)
 養護教育専攻(26)

- 専門性の向上を目指し、総合的指導力を持った小中学校教員を養成。
- 各教科の内容や指導に関して学びつつ、多様な課題を解決できる創造的実践力を育成。
- 特別支援教育、養護教育のキーキャンパス
- 小中学校教員を養成し、主に札幌市の小中学校教員(札幌市教育委員会)として学生を輩出。

旭川校(270)

教育発達専攻(50)
 国語教育専攻(30)
 英語教育専攻(25)
 社会科教育専攻(40)
 数学教育専攻(30)
 理科教育専攻(40)
 生活・技術教育専攻(25)
 芸術・保健体育教育専攻(30)

- 教科教育を深く学び、教科の実践的指導力を持った小中学校教員を養成。
- 特に中学校の教科内容の研究の充実を図る。
- 教科に強い中学校教員の養成を主眼とし、主に北海道の中学校教員(北海道教育委員会)として学生を輩出。

釧路校(180)

地域学校教育専攻(40)

地域・環境教育専攻(40)

学校カリキュラム開発専攻(100)

地域学校教育実践専攻

- へき地・小規模校教育など、地域の特徴をふまえた教育を学び、地域で活躍できる小中学校教員を養成する。
- 北海道の地域特性を活かした教育や、特別支援教育・地域生涯教育のための教育実践と教材開発などにも取り組む。
- 小学校教員の養成を主眼とし、主に北海道の小学校教員(北海道教育委員会)として学生を輩出する。
- 地域に根差し、学校教育の総合的な実践力を有する教員を養成する。また、地域特性を活かした教科横断的なカリキュラムマネジメント力を育成し、地域課題解決の学習・活動を推進できる教員を養成する

へき地・小規模校教員を養成するカリキュラムモデル（概要）

釧路校が養成する教員像



汎用的・総合的な実践的指導力を備えた教員

- 小・中・特支3免許を有する汎用的指導力
- 教科横断的な学習活動・探究活動を進める指導力
- 実践的指導力
- へき地・小規模校教育を担える総合的指導力
- 地域コミュニティと協力した教育活動を進める指導力

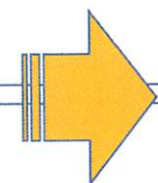
へき地・小規模校教育等、地域特性を踏まえた教育を学び、地域で活躍する教員を輩出

へき地・小規模校教育の理解及び実践力を有する教員養成のカリキュラム

- へき地・小規模校及び複式形態を活かした教育活動を展開できる教員
- へき地に根ざし、地域環境（教育資源・人材を）を活用した教育を実践する教員
- 多種、多様な子どもを協働的にまとめ、子どもの学力を向上させる教員

科目群	1年	2年	3年	4年
教養科目	○地域学校教育実践研究 ○へき地教育論 ○釧路の社会と文化 ○学級経営論 他	○釧路の自然と環境 ○探求学習活動論 他	○教育フィールド研究 VII（道東地域体験）	へき地、ESD、自然体験学習及び地域の農業・漁業と総合的に連動した
教職課程コア科目	○教育フィールド研究 I（学校基礎） ○教科教育指導法 他	<ul style="list-style-type: none"> ●へき地小規模校教育研究 ●チーム学校論 ●ESD実践論 他 		○へき地学校ボランティア活動 ○特別支援教育
専攻科目	○へき地・小規模校教育研究 ○へき地学校教育論 ○学校と地域の教育論 他	<p>【プロジェクト科目群】 へき地教育実践PJ、ESD教育実践PJ、多文化教育実践PJ、地域教材開発教育実践PJ、学力向上教育実践PJ、インクルーシブ教育実践PJ、コミュニティスクール教育実践PJ、家庭教育実践PJ 他</p>		
教職課程コア科目（教育実践）	○へき地校体験 ○教育フィールド研究 I（学校基礎）	○へき地校体験実習 I ○教育フィールド研究 II（学校応用） ○基礎実習	○教育実習事前指導 ○教育実習 I（へき地校） ○へき地校体験実習 II ○教育実習事後指導	○へき地校体験実習 III ○特別支援教育実習

卒業研究



北海道教育大学 釧路校



へき地校体験実習

北海道教育大学釧路校は、2006年の大学再編により、「地域に根ざした教員養成」を特色の一つに出発しました。その具体化の一つとして「へき地校体験実習」を実施し、より多くの学生に道東の学校や地域について学ぶ機会を設定しています。

へき地校体験実習では、へき地・小規模校教育の特色である「きめ細やかな少人数指導」、「教師と児童生徒との密接な信頼関係」、「地域と連携した学校経営」等を実地で体験させる取り組みです。今日の教育の諸課題に対応する高い教育実践力・課題解決能力を持つ教師の養成を目指します。

1. へき地校体験実習のねらい

1. へき地校体験実習Ⅰ(2年生を対象とした1週間実習)では、へき地・小規模校と子ども、教育課程、指導方法などの特色を実地の観察を行うとともに、地域について学びます。
2. へき地校体験実習Ⅱ(3・4年生を対象とした2週間実習)では、複式学級あるいは少人数学級における指導方法について、授業実践の体験を通して理解を深めます。



2. 年間計画

【へき地校体験実習Ⅰ】

4月	実習生募集ガイダンス 実習生募集受付・個人面接実施
5月	実習生の確定 実習オリエンテーション
6月～7月	全体事前指導・実習校ごとの個別指導
8月	実習直前指導
8月～9月	1週間現地に滞在して実習を行う
9月～11月	実習手帳の整理・事後指導
12月	学内実習報告会の開催

【へき地校体験実習Ⅱ】

4月	実習生募集ガイダンス 希望者は「道東の教育」を履修 (3年前期開講科目)し、へき地・複式 教育の学びを深める
5月	実習生募集受付・個人面接実施
6月～7月	実習生の確定・へき地小規模校の運動 会等の行事参加と複式授業参観を行う
8月	全体事前指導
9月～10月	実習校事前面接訪問
10月～11月	2週間現地に滞在して実習を行う
10月～12月	事後指導(実習終了後1週間以内)
12月	学内実習報告会の開催と総括レポ ートの提出

3. へき地校体験実習 I

- ①受講学年 2年生
- ②受講学生数 児童生徒数，学級数に応じて各学校が指定
- ③時期と期間 8月下旬から9月まで／1週間
- ④実習の内容
 - ・子ども理解を中心とした観察実習
 - ・可能な限りにおいて教壇実習
 - ・地域理解につながる行事等への参加
- ⑤評価 実習校から提出される「評価票」にもとづく
- ⑥宿泊施設等 校区内のコミュニティセンターで自炊宿泊設備が整った研修施設等



へき地校体験実習 I の実習生数・実習校数の推移
(釧路校配属 *印は札幌・旭川校の学生が一部配置)

市町村	実習協力校名	年度									
		2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008
士幌町	佐倉小学校										3
足寄町	蝶湾小学校	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
鹿追町	瓜幕小学校								4*	2	2
	笹川小学校	3				4	4	4			
幕別町	上幌内小学校		3	3	4						
	糠内小学校	3	3	3		3	3	3	3	3	
帯広市	古舞小学校				2					3	
	八千代中学校			2	3	3	3	3*	3*		
帯広市	愛国小学校	1	1	1	1	1	4	3			
	広野小学校	2	2	2	2	2	3	3			
	清川小学校	2		2		2	2	2			
	清川中学校	2	3	2		2	2	2			
釧路市	山花小中学校	2									
釧路町	知方学小学校		3								
音更町	東士狩小学校								4*	2	
	東士幌小学校								3*		
占冠村	占冠中央小学校	3*	3*	3*				5*	5*	2	
新得町	富村牛小中学校							3*	4*		
実習生数合計(人) (カッコ内は釧路校学生数)		21 (18)	21 (18)	21 (18)	15	20	24	31 (20)	29 (17)	15	8



実習生の感想 Aさん

実習を通して、へき地校ならではの良さをたくさん見つけることができました。特に感じた良さは、「人が温かい、仲が良い」ということです。学校内での人間関係(子ども同士、教師同士、教師と子ども)はもちろん、学校、家庭、地域の結びつきを大変強く感じました。へき地教育についての知識を深めるだけでなく、人とのつながりの大切さを学ぶことができた実習となりました。参加させていただくことができ本当に良かったです。

(2016年度へき地校体験実習 I 受講 2年生の感想より)



4. へき地校体験実習Ⅱ

- ①受講学年 教育実習Ⅰ(主免・小学校／一部中学校)を修了した3・4年生
- ②受講学生数 児童生徒数, 学級数に応じて各学校が指定
- ③時期と期間 10月から11月/2週間程度
- ④実習の内容
 - ・教壇実習(小学校は7~10時間, 中学校は7時間程度)
 - ・観察実習
 - ・地域や学校の理解につながる行事への参加
- ⑤評価 実習校から提出される「評価票」にもとづく
- ⑥宿泊施設等 校区住宅やコミュニティセンター, ホームステイ等
寝具や自炊に必要な生活用具は学生・大学が持ち込み



へき地校体験実習Ⅱの実習生数・実習校数の推移(釧路校)

市町村	実習協力校名	年度													
		2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2004
別海町	上風連小学校	2	2	2	2	2									
羅臼町	飛仁帯小学校								閉校	3	3	3	3	3	2
	植別中学校								閉校	0	1	2	2	5	
根室市	花咲港小学校	3	2	3	3	3	3	3	3						
	瑤瑤瑠小学校						2	2	2						
標津町	薫別小中学校						閉校	4	4	5	7	6	6	5	3
	古多糠小中学校								3	3	3	3	3	3	3
	川北小学校						3	4							
標茶町	忠類小学校												閉校	1	2
	久着呂中央小中学校				2	2	2	1	1	0(1)	1	2	2	2	
	沼幌小学校			2	2	2	2	2	2	1(2)	2	2	2	2	
	中御卒別小学校					2	2	2	2	2	2	2	2	2	
鶴居村	磯分内小学校	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	塘路小中学校	2	2	2											
	幌呂小学校	2	2	2	2	2	2	2	2	1(2)	2		2	2	2
下幌呂小学校	下幌呂小学校	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2		2		
	西円朱別小学校						閉校	2	3	0(2)					
浜中町	茶内第一小学校	2	2	2	2	2	2	2	2	0(1)	1	1			
	茶内第三小学校									閉校	2	2	2		
	姉別小学校									0(2)	2	2			
白糠町	茶路小中学校	1	1	2						1(2)	1	2	2		
釧路町	昆布森小学校	4	4	2	2	2	2	2	2	0(2)	2	2	2		
	布伏内小学校										閉校	2	2		
釧路市	中徹別小学校				3	2	3	3	2						
	和琴小学校	1	1	1	1	1	1	1	1	1					
	奥春別小学校	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2			
弟子屈町	昭栄小学校				1	1	1	1	1	1	1	1			
	美留小学校	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
実習生数 合計(人)		23	22	24	25	27	31	37	39	24(35)	35	31	32	23	12
実習校数 合計(校)		12	12	13	14	15	16	18	19	12(18)	17	13	13	8	5

※ 2009年度は、新型インフルエンザの影響のため、当初計画数で実施することができなかった。()内数字は当初計画数で、外数は実際に行った実習生数及び実習校数である。

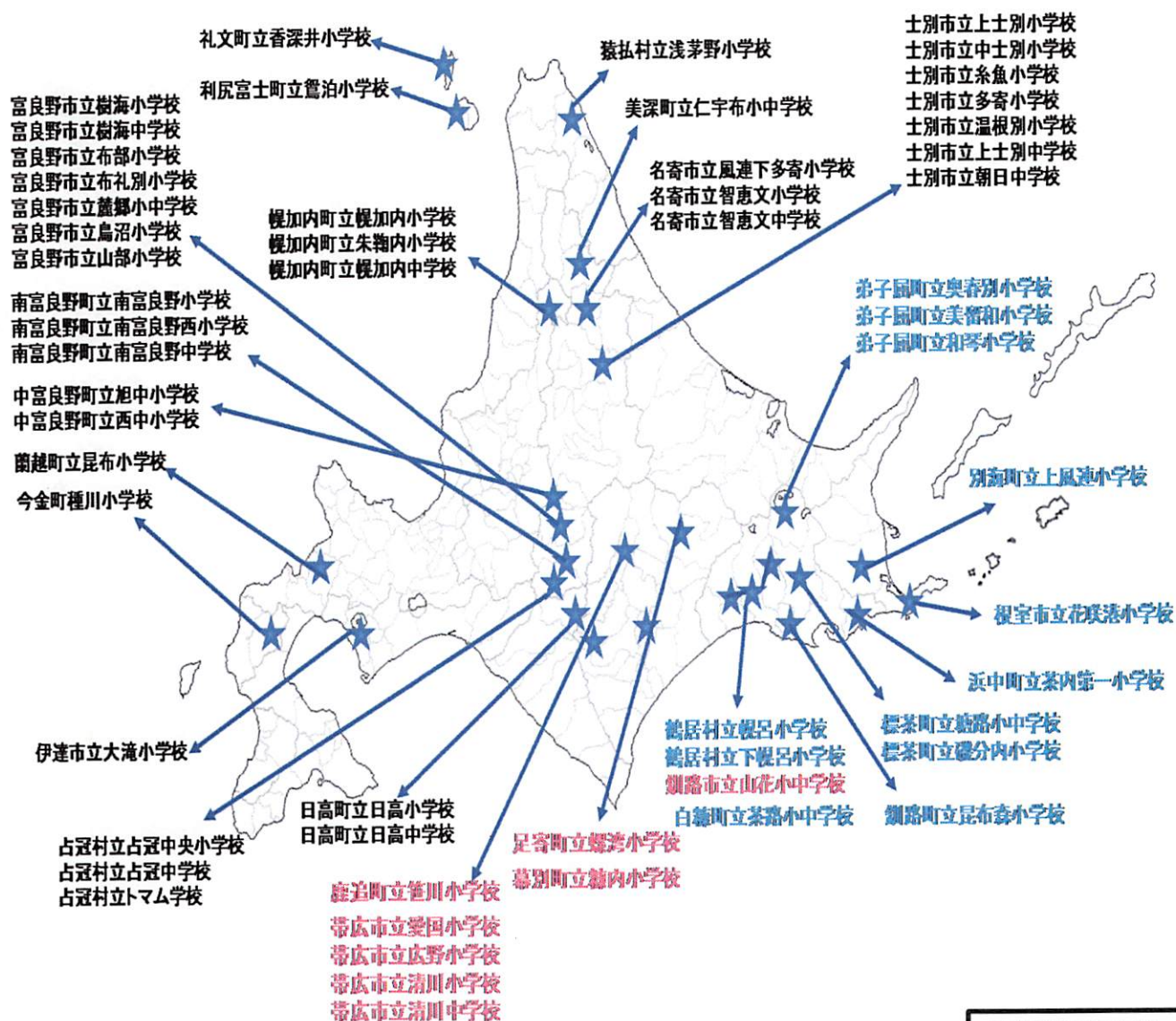
実習生の感想 Bさん

実習校の先生方、子どもたちが本当に温かく迎えてくださり、丁寧にご指導くださりとてもありがたかったです。複式学級において上の学年や下の学年がいる雰囲気や少人数であるがゆえの友達関係の難しさや学年間の縦のつながりの強さを知ることができました。また、複式授業の難しさや、子どもが主体となる学習の素晴らしさ、子どもの力の大きさを知ることができました。とても貴重な経験をするのでした実習となりました。

(2016年度へき地校体験実習Ⅱ受講 3年生の感想より)



平成29年度 北海道教育大学 へき地校体験実習



平成29年度 実習協力校 28市町村 57校 実習生合計 130名

黒字は夏期37校
旭川校・札幌校
2・4年生対象

ピンク字は夏期8校
釧路校2年生対象

青字は秋期12校
釧路校3・4年生対象

発行日 2017年4月
 編集 北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門
 北海道教育大学釧路校 へき地校体験実習委員会事務局
 所在地 〒085-8580 北海道釧路市城山1-15-55
 連絡先 TEL 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292
 E-mail kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
 ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace

北海道教育大学 『へき地・小規模校教育研究』全国センター化を目指して

へき地・小規模校 教育研究の視点

へき地実習の 強化と支援

- ・複式指導・少人数指導法の学修
- ・どんな地域でも対応できる教員養成
- ・小規模校の魅力を見出せる教員養成

へき地性小規 模性の工夫

- ・広域性による学校統廃合の困難さ
- ・有人離島政策による国土保全
- ・クラス替えがない単級校、高校存続

複式学級編制 による教育

- ・2個学年の学級編制、学年進行によって単式と複式を経験する子どもの学び
- ・都市部でも複式校が増加

HATOプロジェクトを発展させた
『へき地・小規模校教育研究』の全国センター化
を目指す

戦略的取組

- ・どんな地域でもどんな学校規模でも対応できる教員養成の実現に向けた北海道教育大学独自のカリキュラム編成や理論と実践の往還
- ・全国小規模校ネットワーク化による研究の推進体制を強化し、全国的に進む小規模校化の充実方策の発信
- ・現職教員研修の支援の充実
- ・国際的なニーズの高い諸外国におけるへき地教育指導技術等の普及（JICAなど）
- ・関係省庁との共同研究の推進と日本の教育改革への貢献

へき地・小規模校教育の研究は、市街地・大規模校への応用ができる教員養成を実現していく
⇒へき地の教員養成の取り組みは現職教員研修への支援にも求められる視点